

昭和62年消防白書

1年間に

9,700万円が灰に



広域市町村圏組合消防本部では、六十二年中の火災発生状況と救急車の出動状況をまとめました。これによると当市での火災発生件数、損害額はここ数年横ばい状態です。また、救急車の出動件数は、前年に比べ六十六件の減少となりました。

**62年中に
21件の火災
が発生**

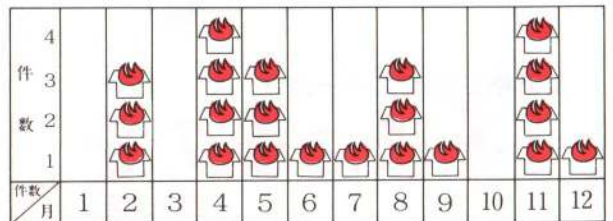
六十二年中の当市の火災発生件数は二十一件、昨年より二件の減少となっています。損害額は九千六

◇昭和62年火災の実態

(人口は昭和63年1月1日現在)

項目	秋田県	大館市
出火件数	593件	21件
人口1万人当たりの件数	4.7件	2.9件
火災による死者	28人	0
火災による負傷者	68人	1人
損害額	19億5,815万円	9,692万円
1人当たりの損害額	1,568円	1,373円

◇月別火災件数



◇60年からの火災原因ワースト3

【62年中】

- 1位 ガスコンロ..... 3件
- 1位 石油ストーブ..... 3件
- 3位 たばこ..... 2件

【61年中】

- 1位 電気器具(配線劣化含む)..... 5件
- 2位 放火(自損行為も含む)..... 3件
- 3位 枯れ草焼き..... 2件

【60年中】

- 1位 薪ストーブ..... 5件
- 2位 石油ストーブ..... 3件
- 2位 ガスコンロ..... 3件

百九十二万円で、昨年より百三十八万円減少したとはいえ、市民一人当たりすると千三百七十三円が灰になったこととなります。幸い火災による死者はゼロでしたが、負傷者は一人出ています。出火原因では、ガスコンロによる火災と石油ストーブによる火災がそれぞれ三件でトップをしめています。また、依然として多いのがたばこの火の不始末です。これらの原因を見てもわかるように、火気の近くに燃えやすいものを置くなどちよつとした不注意から火災が発生し、皆さんの大切な財産が一瞬のうちに灰に

なっています。火災発生を月別に見ると、四月と十一月がそれぞれ四件とトップで、五月から九月までの暖房器具を使わない時期にも火災は発生しています。この中には、林野火災三件も含まれています。

市長の対話ノート

夢多い下水道



No.168

海外旅行や東京へ出張した方に「大館と一番違う点は」と尋ねると、「トイレ」という返事が圧倒的に多いようです。

日本の下水道の普及率が三二%。後進国といっても過言ではありません。秋田県は十%弱、大館はゼロです。

遅ればせながら六十三年度から工事を本格的に始め、一部は六十七年から供用開始となる予定です。

汚水と雨水の両面からの仕事で、しかも地下埋設、地味で長期間を要し、膨大な費用がかかる大仕事ですが、今日の生活水準からすれば不可欠のものです。

よく経済大国日本とは言いますが、生活大国日本と言う人はいません。今ようやくその門戸をつくらうとしていくところですよ。

下水道事業を円滑に進めるためには市民のご理解とご協力が大前提です。そのため、新年度には担当課を新設する予定となっていますので、万難を排して協力をお願いします。

「子に贈る、大きな遺産、下水道」これがキャッチフレーズです。百年の大計に立つ、子や孫のためにも、住みよい都市生活環境を、今困難を覚悟で私たちの手につくろう。それが私たちに果せられた今世紀最大の課題です。

留山健治郎